

## 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5年計画の3年度目)

### 1. 研究課題

(和文) 術数学—中国の科学と占術

(英文) Study on ShuShu : Science and Divination in China

### 2. 研究代表者

(氏名) 武田 時昌

### 3. 研究期間

平成 10 年 4 月 から 平成 15 年 3 月 まで

### 4. 研究目的 (400字程度)

術数学は、自然科学の諸分野と易を中核とする様々な占術とが複合的に絡み合った中国に特有の学問分野である。東アジア世界の科学文化を構造的に把握し、学問的な本質や特色を明確にするには、近代科学の先駆的業績として離散的な発見、発明を時系列に並べて顕彰するだけでなく、当時の科学知識がいかなる役割を担っていたかを分析的に考察する必要がある。そのような研究を遅滞させている最大の要因は、術数学がほとんど未開拓のままに放置されているところにある。そこで、術数学を総合的に研究するプロジェクトを立ち上げることにした。

研究の手がかりとして、近年出土した簡帛資料には先秦から漢代に至る科学や占術に関する論説が満載されていることが注目される。また、日本に残存した『五行大義』『医心方』や陰陽道資料にも、中世の術数書の佚文が多数引用されており、きわめて有益である。それらの読解を通して、術数学の全体像を解明し、理論構造の特色を探る。

### 5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

本年度は、科学と宗教、宗教の境界領域にわたる文献を会読しながら、術数学の形成と展開を検討する読書会を毎月2回行った。取り上げたテキストは、張衡『靈憲』、虞搏『医学正伝』、方以智『物理小識』及び『鶡冠子』である。また、ゲストスピーカーの特別講演と班員による研究発表を行う研究集会を毎月1回開催した。そこでの中心的な論題には陰陽五行説の五音をめぐる言説を取り上げ、『五行大義』巻三、論配声音や敦煌『宅経』等の読解を通して、五音が占術理論にどのように応用されているのかを全員で討議した。2012年10月から3ヶ月間、研究所の客員教授に招聘した陳松長教授（湖南大学岳麓書院副所長）を講師として、出土簡帛に関する特別講演会を12月3日と1月7日に2度企画した。

中国、韓国で術数学関連の研究を推進している研究者とのネットワークを構築し、国際共同研究プロジェクトを発進させる準備として、本年八月には韓国術数学学会の中心メンバーである李東哲教授（龍仁大学）、全勇勲准教授（ソウル大学奎章閣韓国学研究院）の両氏を招聘し、

国際集会の打ち合わせ会を行い、同時に特別講演会を開催した。そして、2012年2月2-4日に、拠点シンポジウム経費によって韓国から研究者6名を招聘し、日韓術数学ワークショップを実現させた。

#### 6. 研究成果の概要 (400字程度)

術数学の理論形成において、五音を用いた音律理論がどのような役割を果たしたのかについて、五行説の成立との関連において遡及的に考究した。そして、五音説が天門律暦学、医薬学、占術、音韻学等の諸分野でどのように応用されているかの具体的様相を探り、術数学の学問的枠組みを明確にすることを試みた。とりわけ、『日書』等の新出土資料における五音の五行説配当が漢代以降の通説と異なることを明かにし、五音を用いた占術が敦煌出土『宅経』の五姓占いの数理を構造的に把握できた。また、韓国の『訓民正音』、日本の陰陽道資料についても検討を加え、術数学の東アジア的展開を窺った。

国際的な研究交流について、ワークショップや特別講演会を通して、共同研究の基盤作りを推進した。今後においては、本年6月には韓国での国際ワークショップの開催に向けた準備を開始し、今春に韓国側の資金援助のメドを立てることができ、班員のなかから参加メンバーを選定し、研究テーマを決定した。また、陳松長氏を中心とする中国の古代占術グループと連携を深め、国際ワークショップの開催に向けての協議を行った。

#### 7. 共同研究会に関連した公表実績 (出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など) <出版物>

1. 『小島宝素堂関連資料集』 (東方学資料叢刊第20冊、多田伊織・武田時昌編、2012年3月)  
<公開シンポジウム&ワークショップ>

1. 術数学東京ミーティング2011 (班員4名の研究発表と講師1名による特別講演と公開討論会)  
2011年9月4日 於大正大学巣鴨校舎

2. 科学史学会創立70周年記念 京都シンポジウム2011 (日本科学史学会京都支部との共催)  
2011年12月4日 於京都大学文学部新館 総合テーマ「東西科学文化交流史研究の新展開」

3. 日韓術数学ワークショップ (韓国術数学学会の中心メンバー6名を招聘、講演と公開討論会)  
2012年2月2-4日 於同志社大学・人文研、総合テーマ「東アジア術数学研究の現状と課題」

#### <公開セミナー>

1. 京都アスニー・ゴールデン・エイジ・アカデミー (京都アスニーとの共催)  
(班長の武田が企画し、研究会班員2名を含む講師4名による公開セミナーを実施)  
2011年9月2, 9, 16, 30日 於京都アスニー 総合テーマ「近世日本の科学と技術」

#### 8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区分	所属機関数	参加人数	延べ人数
学内	3	13	217
国立大学	7	8	43
公立大学	3	5	84
私立大学	17	22	276
大学共同利用機関法人	2	2	35

民間・独立行政法人等	11	11	121
外国の研究機関	6	6	16
(うち大学院生)	( 8 )	( 19 )	(215)
計	49	67	792

※当該年度の共同利用・共同研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

(例)

- ・ 1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた(参加した場合) : 参加人数2人、延べ人数6人

#### 9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

論文数	58
上記のうち国際学術誌に掲載された論文数	3

※研究者がファーストオーサーであること。学内の紀要等に発表されたものを除く

なお、高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された論文がある場合、その雑誌、掲載論文、そのうち主な論文の詳細等

掲載雑誌名等	論文名	発表者氏名
日本中国学会報	刑徳遊行の占術理論	武田 時昌
東洋哲学 (韓国)	자연적情과 당위적情-荀子の性情論에 대한 小考 (自然なる情と然るべき情—荀子性情論小考)	鄭 宰相